

回 会 報

新日本美術協会

第三十六回新日美展

実行委員長をお受けして 永野 信

この秋の十月四日から東京都美術館で開催されます第三十六回新日美展で、委員の皆様から推されて実行委員長を勤めることになりました。これまでも大勢の委員の皆さんや会員の方々のご協力で本展を成功させてきましたが、今回も倍増のご支援をお願い申し上げます。

過去二ヶ年、上野の森美術館における展覽会は会場が狭かったことと搬入・搬出や、経費の上で多くのご負担をお願いしましたが、東京での公募展を立派に開催することができました。そして今回、新日美展はいよいよ新生・東京都美術館に戻ってきました。リニューアルされた都美術館では新しいコンセプトを「アートへの入り口」とし、公募展においては「つくる喜びの共有」として、子供たちからシニア世代までの心の豊かさの拠り所となるように努めています。

新たな都美術館における新日美展は、従来、ロビー階の奥二室と、その上の一階の一室、計三室でしたが、今回の第三十六回新日美展からは一階の奥四室を連続して使用することとなり、会場が三十三割広くなります。これにより今まで二段がけとなっていた多くの展示室はほぼ解消されるものと期待しています。

この会期が早くなったことと、会場が広くなったことについてはこれまでの実績が評価されたが故でありますが、いま私たちが新に都美術館で再スタートするについては多くの改善すべき問題があると思います。先ず第一に会員の若返りを図り、会員数を増やす

事務局
千葉県柏市大津ヶ丘
3-17-17-401
森屋治三方
TEL 04-7191-6760

編集委員
本部 小高 峰夫
富岡 ネム子
大石 亨
京都 四方 公二
広島 藤原 清

ことで、これが会、隆昌の基盤であります。この三十六回展の運営に当たっては調整を図らなければならないことが多くあると思えますが事務局長、会計委員、各委員の皆さんのご支援を頂いて努めてまいりますので宜しくお願い申し上げます。

第三十六回展特別企画を実施

・**京都巡回展開催** 32回展以降中止していた巡回展が再開される。ただ今、開催細部について調整中であり後日発表されることになっている。開催時期・場所は次のとおり。平成二十五年三月 京都府京都文化博物館
・**図録の出版** 新装東京都美術館オーブン記念展として、図録を出版することとなった。図録の作成コンセプト及び概要は同封資料のとおりであるが、関係部分を抜粋すると、今展で展示した全作家の作品(一人一点)を掲載及び会の活動・歴史等を掲載した構成となっている。会員の方、全員の申し込みを頂きたく。また、会場等でも一般販売を計画している。気になるところの徴収経費・販売価格は同封の資料でご確認ください。事務局では、展覧会・出品記録としてお手元に永く置いていただき、作家活動の一助となることを願っています。

ロゴ変更しました



三月の定例委員会にて、変更の意見提案があり、ロゴ内の文字配置を変更しました。

ロゴは文字形の素晴らしさから、配色が素晴らしく印象が強いので文字列を縦読みにする事で、素直に「新日美展」と識別できるようになると思っています。皆で大事に愛用していきましょう。

新任委員紹介



石原 修委員

この度、委員の委嘱を受けました、石原修です。と申ししてもなじみが薄く、ご存じない方が殆どだと思います。

「今にも倒れそうな、薄汚れたパリの裏街を描くおっさん」と言えば、思い出される方もおいでかも知れませんね。

坂本繁二郎、青木繁等を輩出した福岡県久留米市で、昭和十六年に生まれました。絵画に目覚めたのは二十代後半、尼崎時代、ある画材店で目にした佐伯祐三の画集でした。

佐伯が二十代後半、夢中で描いたパリの裏街を、古希を過ぎた私は、いまだに描いています。ブランクの影響を受けた佐伯が、「おれの絵は純粋か!」と、画家仲間に関い正した事を思うと、佐伯から脱皮出来ない私は、実に不純で情けなくります。

三十代半ばの西宮時代にお世話になった有岡正治郎先生から、五十代後半になった私のところに「第二十三回新日美展」の招待葉書が無い込み、その葉書には「将来のため、貴君の参加を待ちます」という文章が添えられてありました。

他の公募展に出品していた関係で、新日美展への出品を躊躇していた矢先、先生の他界を知り、新日美展出品を決意致しま



児玉八千穂委員

した。時はすでに遅しでした。会則に「・美術・文化の向上発展に寄与する。」とあり全国公募展や、地域の活性化を目的とした支部展が活発で活気がありますね。しかし著名美術団体が約五百五十もあり、各美術団体は出品者の確保が課題のようで、当会も例外ではないと聞いています。

更なる「魅力ある会」を創造すべく、皆さんと一緒に考えて行きたいと思えます。

新日美に初めて応募してからまだ六年と日も浅く、私のような未だ右も左も解らない者が思いがけず委員に委任され、大変驚いたと共に、どこまでお役に立てるかには誠に怪しいものの、諸先輩方のご指導を仰ぎ努力して参りたい所存です。

先日、初めての会合に出席させて頂き、委員の方々がどのようにご苦労されて来られたか、その役割と責任の重大さに、増々引き締めなければならないと感じました。何より、これからの新日美を真摯に考え運営する難しさです。

一番大変な事案は、やはり新日美展であります。リニューアルされた東京都美術館は、洗練された内装に変わり、誠に芸術の殿堂に相応しい佇まいとなっております。そんな素晴らしい場所にはなかったものの、経済不振の昨今、東京都美術館で展覧会を行うどの団体もどのように繁栄するかが僅々の課題であり、新日美も例外ではないだろうことは一会員でも感じておりました。

滞り無く運営するのは勿論、新日美の魅力をどれだけ出せるかなど、縁の下のそのまた下で微力過ぎる者ながら、お手